

認知症と共に生きる社会

市では、認知症の人もそうでない人も、住み慣れた地域で、希望を持って暮らせる社会を目指します。

実現には、地域住民や店舗、公共交通機関など、認知症の人が生活の中で関わるすべての人が、認知症を理解し、応援することが必要です。



認知症カフェ
認知症の人や家族、地域住民や専門職など、さまざまな人が気軽に集い、お茶を飲みながら交流する場です。場所や活動日などは、[千葉市 認知症カフェ](#)

生活支援サイト
高齢者の暮らしに役立つ身近な情報を、パソコンやスマートフォンで簡単に検索できるホームページです。趣味のサークルや、生活支援情報などを調べることができます。
[千葉市の生活支援サイト](#)

高齢者保護情報共有サービス
二次元コードを読み取ると、保護の情報が家族などにメールで送られるサービスです。個人情報の開示されません。困っている様子的高齢者がこのラベルを着けていたら、コードを読み取るか、警察などへご連絡ください。
[千葉市 高齢者保護情報共有サービス](#)

認知症サポーター
認知症に対する知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対して、できる範囲で手助けする人です。養成講座は、自治会や民間企業、学校単位で受講することもでき、千葉市では、小・中学生を含む約74,500人が認知症サポーターとして活躍しています（2019年度末現在）。養成講座の受講方法など詳しくは、[千葉市 認知症サポーター](#)



認知症の方と家族にお話を伺いました

このまちで笑って暮らしたい
たろうさん（77）認知症歴4年外に出て体を動かすことが好きです。どんなことでもいいから、みんなで一緒に何かしたいと思っています。若い時に野球をやっていたので、試合を見に行ったり、子どもたちと野球をしたりしたいな。これからも、このまちで、ゆっくり笑って暮らしたいです。

相談相手がいることが支えに
はなこさん（71）介護歴4年他人事だった認知症。主人（たろうさん）が認知症になって、受け入れる心の余裕もなく将来に不安を感じていた時、家族の会を知り、相談相手ができたと支えになっています。主人は困っている人がいると手助けしたくなる性分。体は元気で、できることもたくさんあります。認知症の人にも、もっと活躍の場があってほしいと思います。

もっと気軽に外出できる社会を
はるこさん（70）介護歴5年主人が認知症になって免許を返納したので、買い物などの外出が不便になりました。男女別トイレには二人で入れないため、外出先の多目的トイレの場所をあらかじめ調べて出かけます。少しの間、車いすを置かせてもらえたり、ちょっとした手助けをしてくれる人がいると、もっと気軽に外出できるのですが。

〇〇〇〇〇〇 は、インターネットで検索すると詳しい情報がわかります。インターネットを利用しない方は、地域包括ケア推進課 ☎245-5267 FAX 245-5293 へお問い合わせください。